

飯能西中だより



天覧山 7月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和6年度 第4-1号
令和6年7月4日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立・共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたいていと言え学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

平和のためにすべきこと

校長 中村 公一

例年よりも遅い梅雨入りを迎え蒸し暑い毎日が続いています。数日前から西日本の太平洋側には大雨がもたらされていますが、近年では全国的に豪雨による災害も多く、本校の校区には河川や山間の地域もあることから、風水害に備える心構えを忘れてはならないと思います。本校をはじめとして学校は地震や土砂災害時には緊急避難場所として使用されることが想定されており、有事の際には地域の方とどのように連携していくか、改めてよく考えておかなければならないと思います。

さて、毎年この時期になるとお伝えしているのは「平和への祈り」です。先月の6月23日は79年前に沖縄県民のうちの4人に1人が犠牲となった沖縄戦が終わった日であることから、その犠牲者を弔うために定められた「沖縄慰霊の日」でした。沖縄ではこの日を県独自で休日に定め、全県で祈りを捧げる日としているのですが、遠く離れた関東ではそのことを知らない人も多いようで、悲惨な戦争の記憶がこのまま風化していってしまうのではないかと不安な気持ちにさせられます。その沖縄でも7年前には16歳から19歳の少年ら4人が沖縄戦の戦跡のひとつであるチビチリガマを荒らすという事件を起こし、少年らが逮捕された後にチビチリガマの所以を知らなかったと供述したことから、沖縄の教育関係者が大変大きな衝撃を受けたことがありました。沖縄戦では凄惨な地上戦が展開され、兵士だけでなく一般住民の多くが被害にあったことが知られています。ガマとは沖縄の石灰岩の台地にあちらこちらに出来た自然の洞窟のことで、沖縄戦では多くの人が砲撃から逃れるために逃げ込んでいたといわれています。少年らが荒らしたチビチリガマと呼ばれる場所は80人近くの一般住民が「集団自決」（強制集団死）に追い込まれた場所として知られているのですがその過半数は子どもだったといわれています。沖縄戦での集団自決などから生き延びた人からは、日本軍の兵士から毒物や爆薬を渡され自ら命を絶ったり、敵に捕まる前に子どもの命を奪うよう命令されたとする証言が多く残されており、このチビチリガマでの集団自決もどのようにして起きたのか。その命は誰によって奪われたのか。そのような状況に追い込んだのは誰なのか。そこで起こっていたであろうことが想像できます。このように戦争で起きていたことを想像する力をつけることは、戦争の悲惨な実態や無意味さを理解し、戦争をなくすために私たちができる第一歩なのです。

毎年、沖縄全戦没者追悼式では「平和の詩」が読み上げられます。今年は県立宮古高校の生徒がメリハリのある口調で「これから」という詩を暗唱しました。詩の中にある「誰かが始めた争いで泣く我が子を殺すしかなかった 一家で死ぬしかなかった」という一節からも、沖縄戦のガマで起きていたことが想像できます、更には、もともと沖縄には最初から戦争を望んでいた人や自ら戦争を始めた人などいなかったであろうことも容易に想像できます。これは今だに戦争が続いているウクライナやパレスチナにおいても同様でしょう。そこに住む多くの人にとって「誰かが始めた争いがそのすべてを奪い去っている」という構図に変わりありません。戦争というものは格好いいことでも、勇ましいことでも、尊いことでもないということは、その当事者にとってはごく当たり前のことなのですが、時の為政者にとって都合が悪い真実を覆い隠し、都合がいいように美化されたりすることが、第二次世界大戦が終わってから80年近く経ってもなお続いている事がわかります。平和を願うだけでなく平和のために何をすべきかいつも考えている必要があります。

発達の特徴について

最近、新聞やネットでも発達障害という言葉を目にするようになりました。自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などという名称がよく聞かれます。社会生活をおくる上で生きづらさを感じやすいということから発達障害という言葉を使っているのですが、ここでは話の趣旨を考えてあえて発達の特徴ということにします。それぞれの特性をざっくりまとめると右のようになるのですが、これらの特性が自分に当てはまっていることを知ったのが大人になってからであって、社会に出てから違和感を覚え、病院で調べてもらったところこれらに該当すると診断を受けたという人も少なくないようです。診断を受けるというと何か特別なレッテル張りをされるように思いがちですが、診断の本来の目的はそれぞれの特性を正確に知ることによって1人ひとりに合った適切な対応をすることです。またこれらの特性は弱みだけではなく、見方を変えれば強みになる部分もあることから社会に出てからうまく適応していくための準備とも言えます。いずれにしても大切なのは家族や友達、先生など周囲からの正しい理解と協力と言えます。

ASDの傾向

- ・人の話に関心を持つのが苦手
- ・伝えたいことを言葉にうまくまとめるのが苦手
- ・グループワークが苦手

ADHDの傾向

- ・細かい注意を払うのが苦手
- ・順序立てが苦手
- ・集中するのが苦手

LDの傾向

- ・文を正確に読むのが苦手
- ・数の概念理解や計算が苦手

学びに向かう習慣を身につけましょう

生徒の皆さんへ

今まさに期末試験の最中ですね。まずは目の前のテストに向けて頑張ってもらいたいと思います。期末試験が終わると皆さんにとっては待望の夏休みがやってきますが、そこで改めて考えてほしいことがあります。それは皆さんにとって学びに向かうことがいかに大切かということです。私たち大人がこれまで受けてきた教育ではたくさんの知識を詰め込み、その知識を使って問題を解決出来るような生徒を育てることを目的としていました。教えることが中心であったと言ってもいいかもしれません。しかし、そのような教育を続けているうちに、諸外国と比べて日本の生徒や学生は教えてもらっていないことには関心を持てなかったり、新しい発想をする力や、未知のものを解決する力に欠けているということがわかってきたのです。これまでになかったような様々な困難が予想されるこれからの時代を生き抜いていくためには、新しい知識を誰かが教えてくれるのを待っているのではなく、自ら新しい知識を生み出せるようになっていかなければなりません。そのためには、日頃から学ばされるのではなく、自ら学びに向かっていく心構えや習慣が必要です。教科書やワークに書いてあること、学校や塾で習ったことで満足しているのであれば、どんなにテストで点数が取れたとしても、それは学ばされているのであって学びに向かっているとはいえません。たとえテストでは点数が取れていなくても、間違えてしまったことやわからないことをやり直してみたり、基礎基本の反復をするなど関心を持って日々取り組んでいるのであればこれは学びに向かっているといえます。スマイルネクストやStudy Planetsは近隣の学校ではまだ取り入れられてないサービスですから大いに活用してください。

○ 7月の主な行事予定 ○

- 4日（木）期末テスト
- 5日（金）期末テスト
- 8日（月）とうのす学級バザー
卒業アルバム用写真撮影（8日、10日）
- 12日（金）進路保護者会（3年生）
- 16日（火）4時間授業
- 17日（水）4時間授業、大掃除
「わかくさ」見学（とうのす学級）
- 18日（木）3時間授業、給食なし
- 19日（金）終業式
- 22日（月）三者相談（29日まで）
- 26日（金）PTA懇談会
- 2学期開始は8月26日（月）です

ペーパーレス化への協力をお願い

本校では教育委員会による支援のもと「tetoru（テトル）」を活用した欠席連絡の受付や学校からの情報配信をしております。今後、学校からの配布文書はtetoru（テトル）で配信することでペーパーレス化と業務の効率化を進めて参ります。必要に応じて紙面での案内も継続して参りますが、保護者の皆様におかれましては本対応についてご理解いただくとともにtetoru（テトル）の確認をこまめにしていただきますようお願い申し上げます